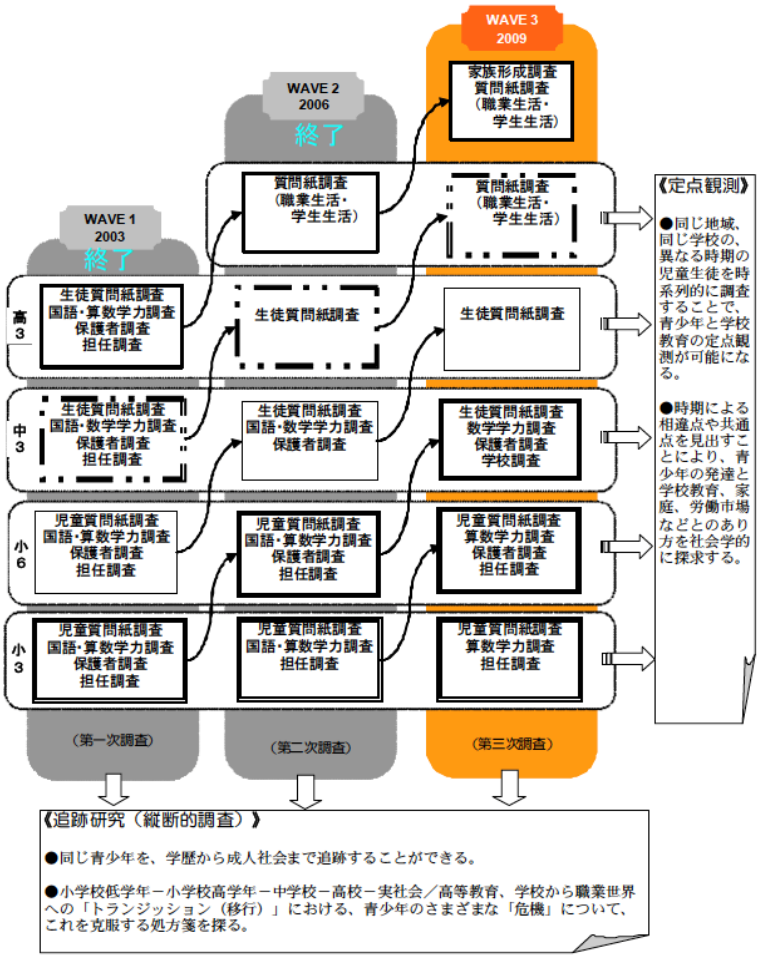
# 教育・社会的格差領域

## 青少年期から成人期への移行についての追跡的研究

（JAPAN　EDUCATION　LONGITUDINAL　STUDY）

耳 塚 寛 明（お茶の水女子大学理事・副学長）
王　　傑（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター）
垂 見 裕 子（お茶の水女子大学人間発達教育研究センター）

本研究は日本の青少年の学齢期から青年期にかけてのトランジションの過程を主として縦断的方法によって観察し、学力・能力、アスピレーション、進路・職業生活の統計的ポートレートを手に入れることを目的とする。これを、家庭的背景（社会階層、経済と文化）、学校的背景、地域的背景（労働市場を含む）などとの関わりにおいて説明し、政策インプリケーションを得る。



平成 14ー18 年度はお茶の水女子大学 21 世紀 COE プログラム「誕生から死までの人間発達科学」(拠点リーダー、内田伸子) のプログラムⅢ「青少年期から成人期への移行についての追跡的研究」として実施された。平成 19 年度以降はグローバル COE プログラム「格差センシティブな人間発達科学の創成」(拠点リーダー、耳塚寛明)の教育社会的格差領域の研究の一環として継続されている。本年度は調査設計（図表参照）のとおり、第三波調査までを終えた。

平成22年度、JELSメンバーが行った主な調査研究活動は以下の通りである。

**①東北地方Ｃエリアにおける調査活動**

県･市の教育行政部門と対象校(44)の協力を得て、東北地方Ｃエリアにおいて児童生徒、保護者および学校関係者を対象とする第三波調査を実施した。

･児童生徒質問紙調査、集団自記式

（サンプル数：小 3　1004 名、小 6　1092 名、中 3　1101 名、高 3　923 名）

･算数と数学(achievement test、performance assessment)の学力調査、集団自答式

（サンプル数：小 3　1004 名、小 6　1092 名、中 3　1101 名）

･担任教員質問紙調査(小 3、小 6 のみ)、中学校窓口調査

･保護者質問紙調査、学校を通した配布と回収

（小 3、小 6、中 3 児童生徒の保護者を対象とする）

ほかに、香港で実施した児童生徒とその保護者を対象とする質問紙調査の基礎集計を完成し､分析に着手し始めた。(28 小中学校の 3202 人の児童生徒とその保護者を対象とする)

**②関東地方Ａエリアへの成果報告**

関東地方Ａエリアの県･市の教育行政部門を訪問し、2009 年に実施した第三波調査の研究成果を報告した。対象校(44)、保護者(約 1800 人)には研究成果のフィードバック資料を送付した。

**③国内外における研究成果の口頭発表**

**･日本教育社会学会第 62 回大会Ⅰ－9 部会　進路と教育(1)（2010 年 9 月 18 日、19 日）**

「家庭的背景と子どもの学業達成－JELS 2009 (1)－」(耳塚寛明、垂見裕子、蟹江教子、

王傑、中島ゆり）

「家庭的背景と子どもの進路形成 - JELS2009 (2)－」（王傑、中島ゆり、耳塚寛明、垂見裕子、蟹江教子）

**・Asia-Pacific Educational Research Association (APERA) 2010　Malaysia(2010.11.24)**

"Middle-School Students' Academic Performance and Family Backgrounds in Japan:Japan Education Longitudinal Study 2009" Asia Pacific Educational Research Association (APERA), Malaysia, November 2010.( Satomi Terasaki, Hiroki Nakanishi, Yuri Nakajima, Naoki Otawa.)

**・家計経済研究所主催「第 10 回パネル調査・カンファレンス」(2010 年 12 月 24 日)**

「家庭的背景と子どもの学力・進路―『青少年期から成人期への移行についての追跡的研究(JELS)』より」（蟹江教子）

**・琉球大学『ソフトパワーとソーシャルキャピタル～学際的研究の展望～』シンポジウム (2011 年 1 月 29 日)**

「日本の子ども達の学校生活とソーシャルキャピタルの関連について」（垂見裕子）

**・グローバルＣＯＥシンポジウム「親の教育戦略―香港・中国・日本―」(2011 年 2 月 24 日)**

「親の教育戦略－中学校選択が意味するもの－」（蟹江教子）

「学校外教育の教育段階別の変化」（垂見裕子）

**④報告書と論文の公刊**

**報告書**

**『ＪＥＬＳ第 14 集　A エリア Wave3 調査報告』**

第 1 部　調査の概要

第Ⅰ章　調査の概要　耳塚寛明

第 2 部　児童生徒調査報告

第Ⅰ章　小学校 6 年生の進路希望　蟹江教子

第Ⅱ章　学校外学習の学年間比較　垂見裕子

第Ⅲ章　Ａエリア・中学生の学習環境と生徒文化

―所得階層による分化はどの程度進んでいるか―　大多和直樹

第Ⅳ章　学力と学習時間の関連―社会階層に着目して―　中西啓喜

第Ⅴ章　高校 3 年生の進路希望とその規定要因の変化　王　杰(傑)

第Ⅵ章　高校生の職業展望　　中島ゆり

第３部　海外学会発表レポート

Chapter１　Middle-School Student’ Academic Performance and Family Backgrounds in Japan: Japan Education Longitudinal Study2009

Satomi Terasaki, Hiroki Nakanishi, Yuri Nakajima, Naoki Otawa

**論文**

・“Determinants of Information Gaps on College Tuition and the Scholarship System”,PROCEEDINGS 13　SELECTED PAPERS, Ochanomizu University. 2011.3.（王　杰(傑)）

・“A Study of Junior High School Students’ Educational Aspirations in Present-Day Japan, with a Focus on Tracking and Pre-Entry Effect”,PROCEEDINGS 13　SELECTED PAPERS, Ochanomizu University. 2011.3.（Hiroki Nakanishi）

**⑤講演会とシンポジウムの共催**

**・講演会「学校教育を補完する学習機会の保障」（2010 年 11 月 15 日）**

学内の「附属学校園を活用した新たな学校教育制度設計に係る調査研究」との共催。オークランド市教育委員会の補完的学習課の長であるニコルソン氏をお招きし、同市が取り組んだ補完的学習の体制やサービス提供の状況を紹介していただいた。

**・シンポジウム「親の教育戦略-香港・中国・日本-」（2011 年 02 月 24 日）**

グローバルCOE国際領域との共催。香港大学の程介明教授（Pro.Kai-ming,Cheng）と江婉愉助教（Doc. Kong, Peggy A.）を招へいし、学内の研究者、大学院生といっしょに香港、中国、日本における親の教育期待と学校外教育についてご報告いただき、大きな反響を呼んだ。